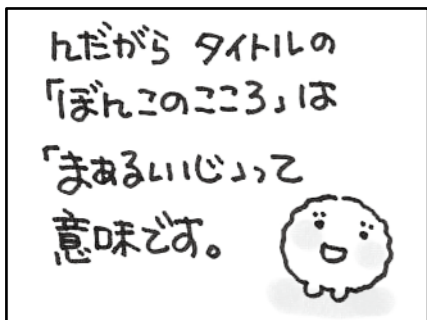


ぼんこのころ

作 本町かずこ

ぼんこちゃん



ぼんこのころでニッコリ笑えます様に

平成23年 春の叙勲褒章

この度、春の叙勲および褒章が発表されました。本市からは4人の方がこれまでの功績を認められ受章されました。



よしだ ゆたか
吉田 豊さん
(62歳 向寺)

放射線診療に尽力されました。
(元白河厚生総合病院放射線科技師長)



ひらやま いちお
平山 伊智男さん
(73歳 栄町)

学校教育に尽力されました。
(元白河市教育長)



えだ ふみお
江田 二三男さん
(89歳 裏山)

統計調査に尽力されました。
(白河市統計調査員協議会員)



すがま まもる
須釜 衛さん
(71歳 古高山)

地域の治安維持に尽力されました。
(元県警交通企画課長)

瑞宝双光章

瑞宝小綬章

瑞宝単光章

危険業務従事者叙勲
瑞宝双光章

第4回 マイタウン白河合同作品展

今年も7団体による「マイタウン白河合同作品展」を開催しますので、お越しください。

◎日時 8月28日(日)~9月4日(日)/午前10時~午後5時(最終日は午後3時まで)

◎会場 マイタウン白河1階市民ギャラリー(本町)

◎問い合わせ先
マイタウン合同作品展実行委員会事務局 ☎⑩7595



ちよっといいはなし



Kawase Nanao
川瀬七緒さん

Profile

1970年4月生まれ。文化服装学院、デザイン専攻科を卒業後、服飾会社にデザイナーとして入社。その後フリーになり、デザインや雑誌の連載などをしながら執筆して現在に至る。読書、映画鑑賞、刺しゅう、人形をいたり集めたりすることが趣味。

—江戸川乱歩賞受賞おめでとうござい
す。白河市出身の作家の誕生に地元では大
いに期待を寄せていますが、現在の率直な
気持ちをお聞かせください。
—そうですね。実感が未だに湧いてこない
というのが正直なところ。もちろん、
歴史ある賞の重みは感じていますが、人か
ら言われるほど「すごいこと」の認識がな
いんです。きつと、思い知るのはいくつか
でしようね。受けた名誉に恥じない作品を
書かなければなりませんから、気を引き締
めたいと思います。
—服飾デザイナーとして活躍されていた
川瀬さんですが、どのようなきっかけで本
を書くようになったのですか。
—これも答えに困る質問なのですが、きつ
かけと呼べるものはありませんでした。4
年前のある日突然、何か物語を書いてみ
たくなった。書いてみたら、今度はそれを止
められなくなりました。まさに「筆毒」
ですね。そのときに書いた700枚のミス
テリーは、今読み返せば超駄作です(笑)。
—受賞作「よろずのことに気をつけよ」
はどんな思いで書かれたものですか。
—昨年初めて乱歩賞に応募した拙作が、最
終段階で落選しました。そのとき初めて、

Interview

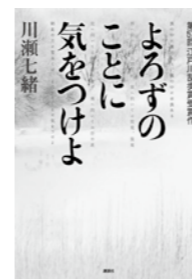


江戸川乱歩賞受賞作家インタビュー

作家誕生。白河の新しい風。

第57回江戸川乱歩賞(5月16日)に選ばれたのが本市出身の川瀬七緒さん。今、全国から熱い視線が注がれる作家・川瀬さんが広報白河のインタビューにこたえてくれました。

みんなで読もう!



「よろずのことに気をつけよ」
講談社 発行

呪術研究を専門にしている文化人類学者が、殺人現場の床下から見つけた古い呪い札をたよりに、事件の真相と呪術の系譜を明らかにしていく……。

—最後にありますが、白河市民にメッセ
ジをお願いします。
—震災が起きたあの日、テレビに映る津波
や火事や倒壊した建物を目の当たりにして
声も出ませんでした。被災した人々に
人が絶望を味わっている今、私の受賞なん
てちっぽけなことかもしれない。でも、
郷里への想いが少しでも励まされたいな
と考えています。そして、命を失われた方々
のご冥福を、心よりお祈りします。
—ありがとうございます。
—実は、100枚ほどの短編の依頼がす
でに入っていて、構想はほぼ固まっています。
書き下ろし長編はその後になりませんが、
マはなんとなく頭の隅で燻っていますね。
動物、自然、未完の美、みたいなものに
強く惹かれる質なので、そのあたりを掘り
下げられればと思っています。
—推理作家への登竜門として知られて
いる乱歩賞受賞という事で、次回作が早く
も期待されています。次に書きたいテーマ
などありますか。
—は生まれながらの決意したんですね。
何を書きたいのかと自問するとき、いつも
何を書きたいのかは里山の空気感です。幼
い頃に祖母の家で見た、老婆が念仏を唱
える仄暗い光景。そんなおぼろげな記憶
から「よろず……」は生まれました。